

【日本的消防（二）】 消防署の一日：引き継ぎと点検

一日はこんなふうが始まった

今回は一回目の[出初式](#)で紹介した神奈川県座間市の消防に密着取材を試みた。座間市には本署・東署・北署と3か所の消防署があるが、この内で中心となる本署を取材した。



2018年2月に完成した消防新庁舎、隣接して総合病院がある。

まずは、消防署の勤務体制から説明しましょう。朝8時30分から一晩経過して翌朝の8時30分までが勤務時間である。これを1当務と呼び、2つのチーム（1課と2課）で年間を通じての繰り返し体制で実施している。取材は2課の当務日に行った。

消防は、事務系を受け持つ本部と災害現場を受け持つ消防署とで構成されていて、両方をまとめる最高責任者が落合消防長であり、取材をした消防署の責任者が江成消防署長である。

取材日2月11日月曜日は日本の祝日であり、本部職員の勤務は休みであったため、消防庁舎は消防署員のみでの勤務体制であった。当直責任者の飯島2課

長を始めとして 23 名の署員が勤務についている。この人員で 1 当務の運営をして行くこととなる。まずは消防署長に、そして 2 課長にあいさつをして取材に入ることにした。

庁舎 1 階の車庫前に今日の当務に当たる 2 課と、今朝当務の明け 1 課の署員が横一列に並んでの車両引継ぎだ。消防の大切な車両を万全な状態に保ったまま当務隊に渡すことが目的とのことだ。ここにまず消防精神の一つである「安全、確認」の精神を見た気がした。

	
<p>引き継ぎの敬礼、画面左側の列が今日当務に入る 2 課。</p>	<p>当務の 2 課消防隊の点検結果が隊員ごとに隊長へ報告される。</p>
	
<p>救助隊の報告の様子。</p>	<p>救急隊の報告の様子。</p>

実働の部隊は災害現場で指揮をする「指揮隊」、消防車を運用する「消防隊」、はしご車を運用する「梯子隊」、工作車を運用する「救助隊」、怪我人や病人を搬送する「救急隊」、そして出動各隊との通信を担当する「通信用員」である。1 当務をこのメンバーで意志の疎通をはかり、災害に立ち向かっていくこととなる。車庫には多くの車両があるが、主な車両を紹介する。



現場での指揮を執る指揮車。



2018年に購入した車両で災害のため他県にも出向く支援消防車。



同じく2018年購入した最新鋭の消防車。



40米級梯子車だが座間消防では他に15米級も備えている。



救助工作車、救出のための油圧機械や器具が装備されている。



本署では常時2台の救急車が出動可能、他の2署は1台である。

車両引継ぎの後、各隊員は3階の事務所へと移動した。ここでは昨日勤務していた1課から業務上の引継ぎ書類が残されており、これを各隊ごとに処理する事務が進められている。火災の件、救急の件、備蓄資材の件など、交代制勤務であるため継続的な業務について遮断させないように事務引継ぎが重要となる。

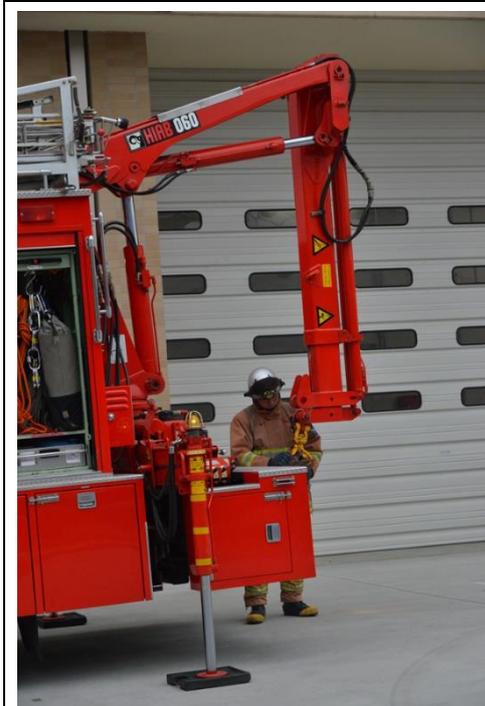


ここは3階消防署事務室、消防・救助・救急各隊と事務係が配置されている。手前のオレンジ服が救助隊。

この処理が完了すると再び車庫に出向き、各隊ごとに車両に積載されている資器材点検が始まった。消防隊はホース・発電機など、救助隊は車両から怪我人を救助するための各種油圧機械を始めとして、救急隊は心電計・除細動器・点滴器材など詳細に作動状態や保管量の点検がなされた。各隊の点検内容の正確さや迅速性に、さらには卓説した操作性に驚かされた。ここに現場活動に生かされた普段の訓練成果が出ていると感じた。



事務引継ぎの後に行われる資器材点検中の消防隊。



救助工作車の油圧クレーン装置を点検、吊り上げ機能を持つ。

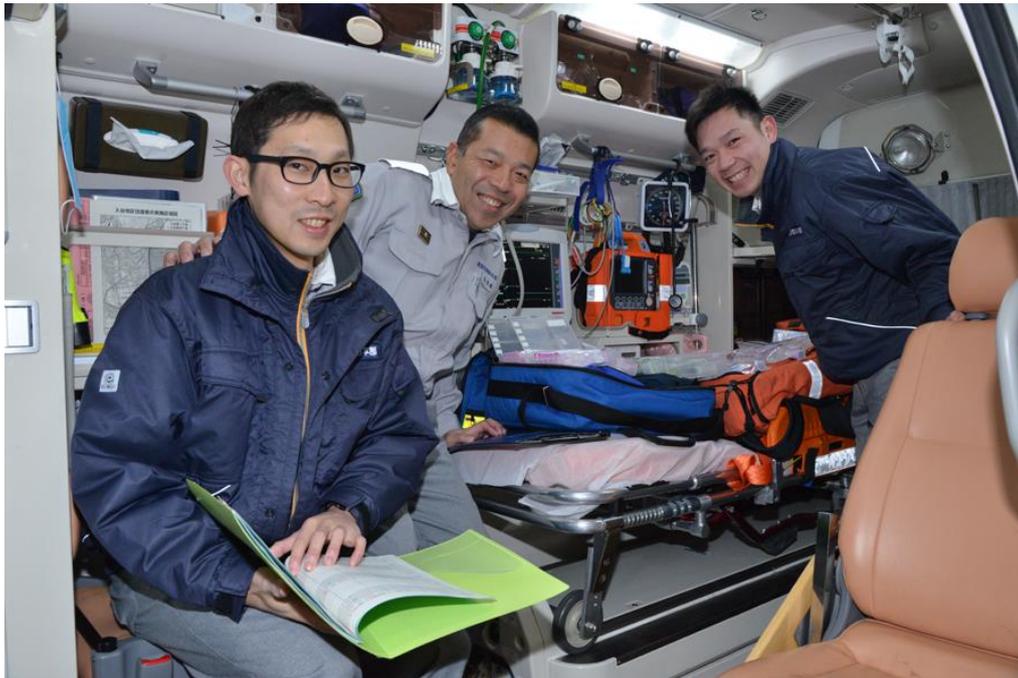


救助隊工作車に積載されているエンジンカッター、車やシャッターなど鉄板を切るための器具。



通常のチェーンソーは木を切るものだが、火災現場では都度材質を判別することが困難、鉄材が混ざっている程度なら使える仕様となっている。

<p>救急車に設置された心電計(左)と除細動器</p>	<p>救急車の後部扉を開けた。右側が主ベッド左は補助席、患者の乗車は原則1名、天井の棚にも沢山の資材が収納されている。</p>



今日の救急隊員の顔ぶれ。

次に佐藤救助隊長に促され車庫前訓練場の片隅に行くと、赤い箱が見本として置いてあり、材料を切断したり赤色の塗料を塗り始めたりしている。はたしてこれは何なのか、説明を受けると謎は解決した。火が発生した際、消防車が駆けつける前に地域の住民たちで道路に埋設された水道管から消火用の水を出し、消火活動をするために使用するホースを保管しておくための箱だとの事、署員が製作し、市内各所に新規に設置したり、破損したものを取り替えたりしているのだ。署員は大工仕事や塗装仕事までやってのける器用者なのだとすることが分かった。



隊員が自ら製作するホース格納箱。	切り込みが済んだら次は塗装工程に移る。
------------------	---------------------

さて、12時から1時までは昼休み時間となり、出勤の無い限りこの間に食事をして休憩を取ることができる。昼休みといえども勤務に入ってから翌日交代するまでは、私的に敷地から一歩も出ることは許されない。従って職員は持参した弁当か出前の食事をとることとなる。一部の者を除き食堂で一斉に食べ始めるのだが、幸いにもこの時の出勤は無く完食することができた。

文／写真 [高橋義一](#)（高橋ぎいち）

取材協力：神奈川県座間市消防署

翻译编辑 JST 客观日本编辑部